

**製品名:** リン酸化 IKK アルファ/ベータ (Ser176/Ser177) ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab00934

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000
分子量	Calculated MW: 85 kDa; Observed MW: 85 kDa

## 抗原情報

遺伝子名	CHUK
別名	CHUK; IKKA; TCF16; Inhibitor of nuclear factor kappa-B kinase subunit alpha; I-kappa-B kinase alpha; IKK-A; IKK-alpha; IkbKA; IkappaB kinase; Conserved helix-loop-helix ubiquitous kinase; I-kappa-B kinase 1; IKK1; Nuclear factor NF-kappa-B
遺伝子 ID	1147
SwissProt ID	O15111
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

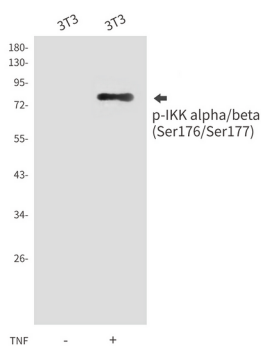
## 背景

炎症性サイトカイン、細菌またはウイルス産物、DNA 損傷、その他の細胞ストレスなど、様々な刺激によって活性化される NF- $\kappa$ B シグナル伝達経路において重要な役割を果たします。IKK の活性化は、IKK $\beta$  の活性化ループにおける Ser177 と Ser181 (IKK $\alpha$  では Ser176 と Ser180) のリン酸化に依存しており、これにより構造変化が引き起こされ、結果としてキナーゼが活性化されます。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



3T3 溶解物中の Phospho-IKK alpha/beta (Ser176/Ser177) の、Phospho-IKK alpha/beta (Ser176/Ser177) 抗体を使用したウエスタンブロット分析。